



かがやく瞳

じょうぶな体の子ども
ゆたかな心の子ども
のびのび遊ぶ子ども

No. 30

発行日 令和7年11月10日
発行責任者 大江 學
編集 社会福祉法人
北見福祉会広報委員会
〒090-0835 北見市光西町 178-5
TEL 0157-57-5057
FAX 0157-57-4767

周りの紅葉も色鮮やかに染まる季節となってまいりました。朝・夕、肌寒い時季となり、峠では降雪のニュースも報道され、冬将軍もすぐそこまで到来したのではないかと思うほどです。

『灯火親しむ候』～読書のすすめ

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋…秋は様々に言われますが、読書の秋にちなみ10月27日は、「読書の日」(10/27～11/9 読書週間)でした。

皆さんは、忌野清志郎さんというミュージシャンを覚えているでしょうか。一度聞いたら忘れられないあの声。自由奔放でいて筋が通った生き方。没後16年程になりますが今も存在感を放っています。



そんなスターにも売れない時代がありました。デビューしたころ、部屋にはテレビも風呂もなく、世間との関りもあまりなかったそうです。ただ、ないない尽くしの暮らしではあったものの、有り余る程の時間に、本をたくさん読んだということです。

手にしたのはもっぱら世界文学で、スタインベックの「怒りの葡萄」やアップダイクの「走れウサギ」、シリトーの「長距離走者の孤独」…。脚光を浴びぬまま世を去る芸術家の悲惨を描いたヘッセの作品に、逆に励まされたりもしたそうです。

「少なくとも俺は、あの時代に本を読んでおいてよかった、と思っている。」と、当時を振り返っていました。また、「本を読んでいる奴が偉いとも思わないし、賢いとも限らない。けれど、読書は自分の中に表現の源泉をもたらしたのだろう。」と語っていました。

表現者に限らず、年齢や立場を問わず、本を読む経験から生まれる何かがあります。感情を揺さぶられたり物事の見え方が変わったり。読んですぐはなくても、じんわりきいてくることもあります。きっとどこかに自分だけの一冊が待っています。

これからの夜長をテレビやスマホから離れ、親子で興味のある本と向き合ってみませんか。まずは、本と親しむ一番の方法は、手元に本を置くことです。読まないで本棚に本を並べておくこと、俗に『つん読(つんどく)』というそうですが、これも立派な読書の一つだそうです。時々積んでおいた本に気づいて手に取ってみる。気に入ったところを拾い読みしたり、表紙を眺めているだけでも十分に新しい発見に出会えるものです。本と触れ合う中に本を読むきっかけがあります。まずは、本と触れ合う機会・環境をつくってみてはいかがでしょうか。(参考文献:北海道新聞)

***** 『特別支援教育』にご理解を！ *****

我が子の育児の大変さや発達の不安を身近な人に相談すると、「うちもそうだよ」「元気でいいじゃない」「考えすぎ」「男の子だから」などと言われた経験がありませんか。

子ども達は一人一人が違った個性をもち、学ぶスピードや興味の対象も様々です。この子は得意なことがあの子は苦手、あの子が大好きなことがこの子は興味なし、といった違いがあるのは当たり前です。



しかし、中には、大部分の子ども達には苦も無くできることが、その子にとってはとても難しく、そのために日常生活や学習の面で非常に困っているという場合があります。こうした子は、発達につまずきを抱えているのかもしれない。

発達のつまずき、いわゆる「発達障がい」とは、脳の高いレベルの働き(言葉を話す、聞いた言葉の意味を理解する、物事を考えたりするなど、脳の様々な部位の

連動が必要となる複雑な脳の働き)の問題が、小児期までにあらわれたものをいいます。

発達障がいには、どの子にも見られる行動ではあるけれど、その程度が通常の範囲を超えているものや通常の子には見られない行動が見られるというものもあります。これらは生まれつきの脳の発達特性が関係しており、しつけや育て方が原因ではありません。

発達障がいの代表的なものとして ADHD(注意欠如・多動症)、LD(学習障がい)、ASD(自閉スペクトラム症)などがあります。

こうした障がいをもつ子ども達は、わざと問題を起しているわけでも、本人の努力が足りないわけでもありませんが、「落ち着きのない子・乱暴な子・物覚えの悪い子・しつけのできていない子…」というような否定的な評価を受けやすく、保護者もまた、「育て方が悪い」などの誤解を受けることがあります。また、知能に遅れはないために、日常生活や学習の面で困難を抱えていても、障がいとは気づかれにくく、必要なサポートを受けることができずに困っていることもあります。

特別支援教育の目的は、このような障がいの特性ゆえの困難さを軽減することによって、本人や周囲の人が困っている状態を改善し、その特徴を自分らしさとして折り合えるようにしてあげること、他の子ども達と同じように学んだり遊んだりする機会を増やしてあげることにあります。

そのためにも、発達障がいや特別支援教育を正しく理解していただき、関係機関としっかり連携し、その子の個性・能力・希望などを理解した上で、その子に合ったサポートをしていくことが大切です。

お子様のことで、何か気になることがありましたらお気軽に各こども園の先生方にご相談ください。

各こども園での「こども達の様子」を紹介します

10月8日、今年度最後の遠足『もみじ遠足』を行いました。朝方雨が降っていたため、行き先を変更することになりましたが、子ども達は皆ウキウキ状態♪



1歳児、2歳児は、バスに乗ってパラきた Kids へ行ってきました。楽しそうなアスレチックやボールプール、そしてハロウィンの飾りに目をキラキラさせていました。

時間いっぱい遊んで大変満足した一日でした。今も園舎内に掲示されている写真を見ては、思い出してニッコリしています。



(「もみじ遠足」～夕陽ヶ丘認定こども園)

10月21日、北見市消防署の『ハロウィン防火教室』に参加しました。ハロウィンということで、スーパーマン、バットマン、カボチャの衣装をした消防士の方々が登場すると、子ども達は大喜び!!

「服に火がついてしまった時の対処法～ストップ・ドロップ・ロール・カバー

ユア フェイス(慌てず止まり、床に寝て、転がり火を消す、転がりながら顔を守る)」や「火事の際に煙を吸わずに逃げる方法(煙より姿勢を低くして、ハイハイで逃げる)」を実際に体験しました。

最後にはおみやげもいただき、楽しみながら学ぶことができました。

(「ハロウィン防火教室」～光西認定こども園)



9月6日、爽やかな秋晴れの下、『運動会』が行われました。子ども達の「あかぐみ・しろぐみ がんばるぞ! エイエイオー!!」の力強い声と共に運動会がスタート!!

見どころは、やはり戸板登りです。各年齢に合わせて角度も上がっていきます。お父さん、お母さん方からの「がんばれ～」の声に応え、子ども達のやる気も UP!

年長さんのクラス競技では、警察に扮するお父さんと泥棒に扮する子ども達との綱引きもありました。カー杯の綱引きは、泥棒の勝利!! 泥棒学校の校長先生からはフルーチェのお宝をもらいました。

閉会式では、「今日は、楽しかったですか?」の声掛けに、子ども達から「楽しかったあ」との元気な声が返ってきました。

(「運動会」～みなみ認定こども園)

